



盛多 勝美 議員 … 1件の一般質問

農業遺産登録と農村景観の継承

町長：農業は基幹産業の一つであり、しっかり取り組む

盛多

現在、本町では約1300ヘクタールのじゃがいもが作付けされ、6月下旬から7月中旬までじゃがいもの花が満開に咲き誇り、訪れる観光客に初夏の風物詩として愛されている。

本町のじゃがいも栽培は、明治25年に始まり、長い年月をかけ男爵いもが普及し、作付け面積も順調に伸び、現在の礎となった。

そこで、本町のバレイシヨ生産の歴史と、将来に向けた資産として守っていくために、次の点について伺う。

①将来に引き継ぐべき農村の価値を発掘し、農産物のブランド化や観光客の増加を後押しする狙いとして設立する日本農業遺産の創設。

②年々増加するインバウンド（訪日外国人）を農村に呼び込むことを目指し、地域の食と農業・景観などを一体的に国が認定する食と農の景勝地の創設。

町長

バレイシヨは、本の基幹作物であり、本町の農業を支えてきた歴史ある重要な作物だ。

①日本農業遺産の認定制度は、何世代にもわたる形づくられてきた伝統的な農業と、それにかかわって育まれた文化、風景、生物多様性などが一体となったものであり、世界及び日本における重要性や歴史的及び現代的な重要性を有するものを広く発掘し、その価値を評価するため、世界農業遺産の日本版として日本農業遺産が創設された。

本町のバレイシヨ栽培は、歴史的経緯はあるものの、栽培方法や品種など特長はなく、認定基準である国内的な重要性、歴史的な重要性、現代的な重要性について、現時点では基準を満たすことは難しいと考えている。

②近年、訪日外国人旅行者が急増しており、和食がユネスコの無形文化遺産登録を受けブームの火つけ役となり、2015年のミラノ国際博覧会で日本館が金賞を受賞した



本町の基幹作物 ～じゃがいも～

こともあり、海外では日本食の店舗が急増している。

食と農の景勝地の認定制度は、地域の食と、それを生み出す農林水産業を核として、訪日外国人を中心とした観光客の誘致を図る地域での取り組みを認定する制度である。

二七コエリアを訪れる外国人旅行者は年々増加傾向にあるが、さらなる増加を図る手段として、この制度を活用することも一つではないかと思う。

まずは、実行組織を立ち上げ、地域の食とそれに不可欠な食材を生産する農業や特長のある景観等の観光資源を活用して、訪日外国人旅行者をもてなすための取り組みを時間をかけて十分協議し、しっかりとした5カ年の取り組み計画書の作成が必要となる。

今年度の応募の締切りは7月29日と期間も迫っているが、次年度以降も認定制度は続くので、順次進めていきたいと思う。